

# 浪岡ダムにおける緊急貯留対応（令和7年11月1日）

○11月1日未明から広域的な大雨（累計60mm）が発生。この降雨により岩木川水系浪岡川下流域の浪岡水位局で水位が急上昇し、氾濫危険水位（2.50m）に達するおそれがあったため、青森県東青森土整備事務所（河川管理者）から青森県農村整備課（ダム管理受託者）へ要請があり、都谷森頭首工経由等で浪岡ダムに約3時間で約23万m<sup>3</sup>緊急貯留し、浪岡川下流域における氾濫リスクを軽減

## 浪岡ダム位置図

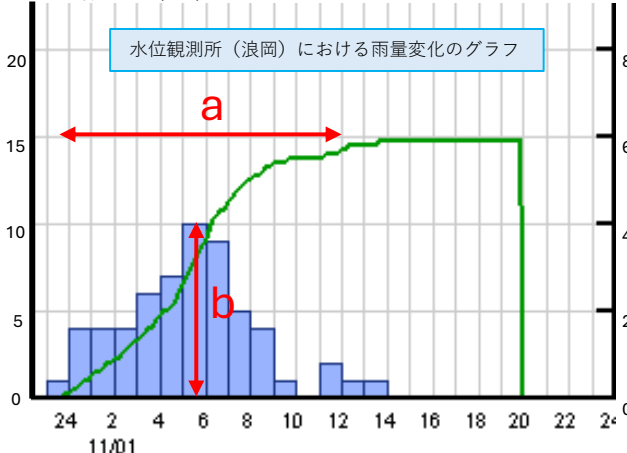
出典 Google Map



## 11月1日の対応

- 8時43分 東青森土整備事務所から青森県農村整備課へ、浪岡ダムへの貯留を要請
- 9時10分 都谷森頭首工において、非かんがい期の取水量は2.8m<sup>3</sup>/sとされているが、都谷森頭首工から浪岡ダムへ最大8.0m<sup>3</sup>/s以上を導水し、貯留開始
- 12時00分 青森県東青森土整備事務所から青森県農村整備課へ、浪岡ダムの緊急貯留を解除してよい旨、連絡あり
- 13時00分 都谷森頭首工のゲートを徐々に閉め、通常の取水量（2.8m<sup>3</sup>/s）に戻す
- 15時40分 下流側河川の流況が安定したため緊急対応が終了

時間雨量（mm） 累加雨量（mm）



a : 11月1日未明～11月1日12時の累積降水量：60mm  
b : 最大時間雨量：10mm（11時1日5時台）

出典  
青森県河川砂防情報提供システム  
雨量情報  
<https://www.kasensabo.bousai.pref.aomori.jp/index.html>

## 浪岡ダム諸元（国営造成施設：農林水産省所管）

名称	浪岡ダム		位置	青森市浪岡大字王余魚沢	
堤体	形式	流域面積		貯水池	
	中心遮水ゾーン型フィルダム	直接	間接	総貯水量	有効貯水量
		5.3km <sup>2</sup>	10.4km <sup>2</sup>	7,600千m <sup>3</sup>	7,500千m <sup>3</sup>

## 都谷森頭首工諸元（国営造成施設：農林水産省所管）

都谷森頭首工	苗代期、代かき期	普通かんがい期	非かんがい期	年間総取水量
	4月1日～5月15日	5月16日～9月1日	9月2日～3月31日	
取水量	2.8m <sup>3</sup> /s	—	2.8m <sup>3</sup> /s	4,060千m <sup>3</sup>

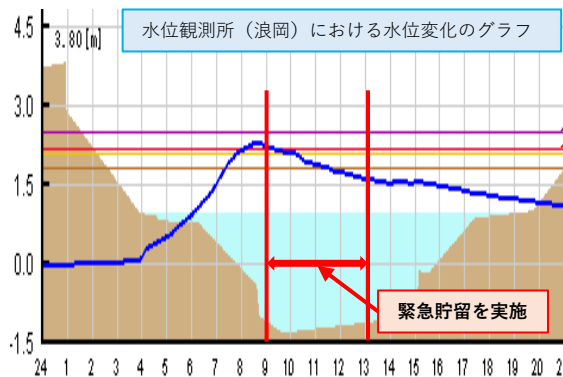
今回最大8.0m<sup>3</sup>/s以上を導水

今回協定期間外に貯留

## 岩木川水系治水協定

ダム低水期間：9月1日～10月31日、洪水調節可能容量：607万m<sup>3</sup>

水利用への補給を行う可能性が低い期間等に貯水位をあらかじめ低下させ、空き容量を洪水調節に利用する運用



氾濫危険水位（2.50m）

避難判断水位（2.20m）

氾濫注意水位（2.10m）

水位

出典  
青森県河川砂防情報提供システム  
河川水位情報  
<https://www.kasensabo.bousai.pref.aomori.jp/index.html>

今回の事例は、短時間に60mmを超える降雨により氾濫危険水位到達のおそれがあった厳しい条件下でも、浪岡ダムにおいて、約23万m<sup>3</sup>を貯留し人命の安全を確保することや協定期間外の緊急貯留の実施により、ダムの洪水調節機能を柔軟に活用、発揮させることの重要性を示した